

Report

Production and Technology of Iron and Steel in Japan during 1979

By Tsuneyo Iki

Abstracts from Tetsu-to-Hagané, Vol. 66 (1980), No. 3 (March)

Contents of Tetsu-to-Hagané, Vol. 66 (1980), No. 3 (March)

Abstracts of Presentations to the 98th ISIJ Lecture Meeting Part I

~~~~~

会員は「鉄と鋼」あるいは「Trans. ISIJ」のいずれかを毎号無料で配布いたします。「鉄と鋼」と「Trans. ISIJ」の両誌希望の会員には、特別料金 3,600 円の追加で両誌が配布されます。

**Analysis of Welded Structures**  
**—Residual Stresses and Distortion**  
**and their Consequences—**

1. 期 日 1980 年 8 月 11～15 日
2. 会 場 Massachusetts Institute of Technology  
Cambridge, Massachusetts, U.S.A.
3. 内 容 ◦ analyses of residual stresses and distortion

- methods of controlling and removing distortion
  - effects of residual stresses and distortion on brittle fracture, fatigue, stress corrosion cracking, and buckling
4. 問合先 Director of The Summer Session  
Room E19-356, M.I.T.  
Cambridge, Mass. 02139  
U.S.A

~~~~~

書 評

~~~~~

**熱 分 析 実 験 技 術 入 門**

真空理工株式会社編集

(科学技術社, B5 判, 330 ページ, 定価 3 500 円)

本書は熱分析、熱物性測定およびその周辺技術に関して、それぞれの分野の第一線の研究者が主に真空理工ジャーナルのために執筆した 70 篇に及ぶ解説、測定結果などをまとめたもので、書名にあるように熱分析実験技術のかつこうの解説的入門書となつている。本書の 10 章の題名は、それぞれ「手作り熱分析装置の作り方」「無機物質の熱分析」「高分子・有機物質の熱分析」「金属の熱分析」「反応速度の解析」「赤外線イメージ炉と高速熱分析装置」「熱物性の測定」「周辺実験技術」「熱分析のルーツを探る」「熱分析タブー集」となつている。これらの題名からも知られるように、現在において熱分析法が非常に広範な領域で活用されている様子をよく知ることができる。

その性格上、本書は統一的な解説書ではない（このような成書を必要とする読者は、本書の「熱分析文献の紹介」の中から適当な文献を選定することができる。）が、これが本書の特徴である。すなわち、断片的ではあるが、具体的事例について、新しい技術をどのように測定法に取り入れるか、このようにして開発された新しい測定法をそれにふさわしい対象にどのように適用するかなどの実験研究者のだいご味が多くの項で生き生きと述べられている。このため本書は、単に熱測定に関心のある研究者ばかりでなく、一般の物性測定に関心のある研究者・技術者の手引きとしてお勧めしたい。（M. K.）